

この歯、
いつの歯？

写真1 望来海岸で見つかった馬の歯。右側がかみ合わせ面



海辺で、歯を拾いました。正確には、観察会で小学生が見つけたものをプレゼントしてもらいました。場所は厚田区望来の海岸です。歯と言っても、人間のものではありません。根がこのほうが折れているとはいえ長さ7cm、かみ合わせの面はミルフィユのように折り畳まれた^{ひだ}襞のようになっていて、草をすりつぶすのに適した形が特徴です。これは馬の歯。第2前臼歯です。

動物の骨や歯は、主にハイドロキシアパタイトという硬い鉱物でできています。特に歯は、表面のエナメル質が鉄やガラスより硬く、水晶並

み。人体で最も硬い部分です。何千年も前の墓の遺跡で、骨は酸性の土で溶けてしまつて歯だけが残っていた、という例もときどきあります。望来海岸で見つかった馬の歯も、生々しいものではなく、においも全くありません。昔のものであることは確か。でも、いったいいつごろの馬なのでしょう？

海岸で馬の歯だけ見つかるのは、実は本州ではとても珍しいことではありません。ビーチコーミング(漂着物採集)好きの間では、鎌倉の由比ヶ浜などで馬の歯が見つかることが知られています。鎌倉時代の武士や農民が使っていた馬が死んで海に流され、800年の間に骨も溶け、最後に残った歯が出てきたんだらう、と言われて

います。では、この望来の馬の歯は？

元当館学芸員Iさんの話では「馬が石狩あたりに入ってきたのは江戸時代末」とのこと。一方で、望来海岸では崖に今から800万年前の地層が広がっていて、貝からクジラまで、いろいろな化石が見つかることで有名です。日本で



写真2 望来海岸。800万年前の地層が広がっている

は馬の化石はほとんど見つかりませんが、本州のごくわずかな発見例の中には、望来の地層と同時代の化石もあります。800万年前なら化石としては新しい時代なので、歯が石化しないで残っていることも珍しくありません。江戸時代どころか、地層から出てきた数百万年前の馬の化石である可能性も、十分あるのです。

100〜200万年前の江戸時代や開拓期か、もっと最近の農耕馬か。それとも、800万年前の馬の先祖の化石なのか。ここから先は、高額な費用のかかる年代測定に出さないと答えは出ません。宝くじが当たるまで、プレゼントは収蔵庫に大事に保管しておこう。

(志賀健司)

石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。